

南京都病院だより

No.75 2024.7

南京都病院

<https://minamikyoto.hosp.go.jp/>
編集：南京都病院広報委員会

Topic

小児科専門外来 「小児心身症・こどもの睡眠」外来の紹介

わた なべ もと のぶ
小児科医師 渡部 基信

1. 診療の紹介

● 小児心身症・こどもの睡眠外来とはどのような疾患に対する専門外来なのでしょうか？

乳児期の夜泣きから中高生の夜更かしまで、睡眠で困っている子どもさんのための外来です。睡眠障害のある子どもたちは心身に問題を抱えていることも多く、保育園に馴染めなかったり、不登校になったり、さらに生活面で保護者の方が困っていることがあります。子どもたちの気持ちに寄り添った診療を心がけております。

● 先生はなぜこどもの睡眠に興味を持たれたのですか？

私は同志社大学の赤ちゃん学研究センターというところで研究もしています。そのセンターでは乳幼児の睡眠について調査を行っていて、その調査に参加したことがきっかけです。調査を通じてあらためて感じたことは、今の世の中は睡眠に関する色々な問題があるのに軽視されているなあ、ということです。睡眠は食事と同じように、子どもの発達や成長に必要なものです。その重要性をもっと伝えていきたいと思います。

2. 先生の紹介

● これまでの先生がされてきた診療について教えてください。

福井赤十字病院に10年いまして、小児の急性疾患や新生児医療や小児がんの治療など、様々な小児科の勉強をさせていただきました。その後大学院で抗がん剤の研究を行いそのあとは、学研都市病院という病院で小児科の開設から始めて17年間診療をいたしました。1人の小児科医で土曜は救急の輪番という状況で大変でしたが、回りのスタッフに助けられました。感謝しております。

● 公認心理師や臨床心理士の資格をお持ちですが、なぜ取得されたのですか？

学研都市病院で17年間勤務するなかで、小さい子どもたちの来院が少なくなり、少子化を実感いたしました。一方、学校などの集団生活に馴染めなかったり、さらに学校へ行けなくなったり、いわゆる心の病ではと思う子ども達の来院は増加してきました。

そんな子ども達のことを少しでも理解したいと思い、心理学について勉強しようと思ったのがきっかけです。

● 同志社大学赤ちゃん学研究センターでの活動について教えてください。

学研都市病院の隣の敷地に同志社大学赤ちゃん学研究センターがあります。なんか面白そうなこととしてそうだと思い、遊びに行ったのがきっかけです。当時センター長だった小西行郎先生は福井赤十字病院でお世話になった方で、ちょっと運命的なものも感じて、そこで研究を始めました。赤ちゃん学は小児科領域にこだわらず、学際的に色々な視点から赤ちゃんを研究しようという学問です。私も「なぜ赤ちゃんは医師を怖がるか(論文になりました)」とか「家庭内での赤ちゃんの事故はどうして起きるか(論文作成中)」など自由な発想で研究しています。

3. これからについて

● 勤務されて当院の印象をお聞かせください。

数多くの重症心身障害の方々を大切にケアし、親身に治療を行っているところに、感動しました。医師として、世俗のことを忘れて精進できる山寺のような病院と思います。

● 今後どのようにこの専門外来を展開していきたいですか？

睡眠障害の子ども達の診療には連携が大切です。近隣の学校や保育園などで睡眠の大切さをお伝えし、連携を深めたいと思います。きっと困っている子どもたちや保護者の方が多くいらっしゃいますので、医療機関として貢献出来ることがあると考えております。

● 患者さんや地域の皆さんへ一言

子どもの睡眠障害は症状があったとしても、病気と認識されていないことが多々あります。睡眠でこまっていることがあれば、是非相談してください。





当院の地域医療連携室を紹介します

地域医療連携室長補佐（経営企画室長） ふな はし まさ ひろ 船橋 正弘

当院の地域医療連携室は、小児科医師である副院長が室長を併任しており、地域医療連携係長（看護師長）1名、社会福祉士3名、退院支援看護師3名、事務助手1名が専任として勤務しております。加えて、経営企画室長が地域医療連携室長補佐、医事課の専門職が医療相談係長、経営企画係長が地域医療連携室長補佐助手を兼務して業務にあたっております。

地域医療連携室では、大きく「**前方支援（連携）**」「**後方支援（連携）**」の2つの業務を行っております。「前方支援（連携）」とは、**主に地域の医療機関から紹介いただいた患者さんの受け入れに関する連携**を指し、当院への受診や他の医療機関からの転院受入に関する相談対応を行っております。「後方支援（連携）」とは、**当院から退院される患者さんへの支援に関すること**を指し、外来受診時または入院早期から、患者さん及びそのご家族のご希望・不安な内容等を把握し、退院後も住み慣れた家庭や施設などで安心して生活が送れるよう、主治医・病棟職員・地域の様々な機関と連携して退院・転院調整を行うことを主な役割としております。

地域医療連携室は医療機関等の相互連携において、その窓口となる、いわば病院の「顔」ともいえる部署です。そのため、地域の診療所を訪問させていただき、開業医の先生方からのご要望を伺う等、地域の皆様との顔の見える関係づくりにも取り組んでいます。

当院は、数多くの診療科を備えている訳ではありませんが、限られた診療分野の中で、良質で丁寧な診療を提供しております。主な診療機能としては、**慢性呼吸器疾患・肺がん・結核を中心とした呼吸器診療、ALS・パーキンソン病等、神経難病を中心とした脳神経内科診療、アレルギー・神経疾患・内分泌疾患・心身症等を背景に発達に関する様々な課題を抱えた小児に対する小児科診療及び重症心身障がい児者への療養介護サービスの提供等**を行っております。入退院を繰り返される患者さんも多いため、じっくり時間をかけてひとりひとりの患者さんに寄り添いながら、退院後の生活及び医療に関する相談、かかりつけ医の紹介、各種申請の手続きに関する相談にも対応しています。

今後も、地域医療連携はますます重要性を増していくこととなります。患者さんにスムーズかつ適切な支援ができるよう、引き続き対応してまいりたいと存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。



Event
2024
6/23

健康フェアを開催いたしました！



広報委員会

令和6年6月23日(日)アル・プラザ城陽で昨年に続き今年も「健康フェア」を開催いたしました。今回の「健康フェア」では、特別講演(セミナー)、骨密度測定・健康相談、キッズ写真・治験、血圧・血管年齢測定の4つのコーナーを設置させていただきました。

参加したスタッフの感想を紹介させていただきます。

特別講演(セミナー)コーナー 地域医療連携係長 濱村 恵子

はまむら けいこ

今回より新企画、呼吸器内科医師による「睡眠時無呼吸症候群」、臨床検査技師による「検査の実際」、小児科医師による「子どもの睡眠」をテーマに特別講演を開催しました。講演後には個々に医師へ質問や相談もあり、睡眠の専門家によるお話を聞いていただきました。人が生きる上で切り離せない「睡眠」について、また当院の専門分野を知っていただく機会になりました。



骨密度測定・健康相談コーナー 撮影透視主任 川端 清志

かわばた きよし

骨密度測定・栄養相談ブースでは骨密度測定の参加者が300名を超える大盛況で、地域の方々が骨密度と食生活に対して強い関心があることがうかがえました。骨密度の検査を受けてその後、栄養相談に行く参加者も大勢いましたし、毎年楽しみにしている方もいました。骨密度検査は超音波を使用した簡易的な測定であったため、当院で行っているX線を使用した正確な骨密度が測定できる検査を定期的に行っていただけたらと思います。

キッズ写真・治験コーナー 心理療法士 上迫 澄世

うえさこ すみよ

雨がばらつき蒸し暑い朝でしたが、たくさんの方にお越しいただきました。男女問わず、「看護師さんがいい」「お医者さんがいい」とそれぞれのお子さんが好きな衣装を選んでくれました。「じょうりんちゃん」の大きさにびっくりして泣いてしまった子も、「じょうりんちゃん」にたくさん話しかけてくれた子も、一緒にお写真を撮って、それぞれのお家に素敵な写真を持って帰ってもらいました。京都府南部山城地方の地域紙である洛タイ新報様が取材に来られ、令和6年6月25日(火)に記事掲載いただきました。今後も地域のみなさまの健康増進に役立てられるよう、「健康フェア」を継続して企画していきますので、ぜひご参加ください。



血圧・血管年齢測定コーナー 臨床検査技師長 福田 修

ふくだ おさむ

測ってくれんの～?やろー、やろーっ! 健康フェアのスタートとともに一人、また一人、とたくさんの方々にお越し頂きました。本コーナーへの来場者数は、今年もチェックにお越し頂いた奥田城陽市長をはじめ、なんと400名超! これからもこのセミナーの開催を継続してね! などと嬉しいお言葉を頂くなど、皆様の健康意識の高さをあらためて感じる事ができました。そんな皆様に寄り添えるよう、今後も研鑽してまいります。



城陽市長 血圧測定の様子

当日はたくさんの方にご来場いただき誠にありがとうございました。今年も城陽市長奥田敏晴様が健康フェアに足を運んでくださいました。また、京都府南部山城地方の地域紙である洛タイ新報様が取材に来られ、令和6年6月25日(火)に記事掲載いただきました。

今後も地域のみなさまの健康増進に役立てられるよう、「健康フェア」を継続して企画していきますので、ぜひご参加ください。

また、最後に会場をご提供いただきましたアル・プラザ城陽店様に、この場をお借りして御礼申し上げます。

地域連携 地域連携に力を傾けておられるみなさまを ご紹介いたします

何でも相談できる「よろず健康相談所」



医療法人
さわい内科医院

院長 澤井 和信 先生



- 京都府京田辺市花住坂1-65-13 山手幹線沿い、京阪バス虚空蔵谷停留所1分 ● 駐車場 25台
- TEL.0774-63-7025 FAX 0774-62-4145
- 当日予約 <https://park.paa.jp/park2/clinics/3294>
- メール info@sawai-naika.com
- ホームページ <https://www.sawai-naika.com>

診療時間

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00~12:30	○	○	○	/	○	○
16:30~19:00	○	○	○	/	○	/

休診：木曜日・土曜午後・日祝



当院は半世紀以上にわたって京田辺(田辺)~八幡地域の医療をみまってきましたが、令和6年4月から「さわい内科医院」として京田辺市花住坂の山手幹線沿いに移転しました。設備を一新し、20台以上の駐車スペースを設けることでこれまでより利便性が大きく向上しています。4月から新院長が就任しましたが前院長も診療を継続しており、2診体制となっているので待ち時間の短縮にもつながっています。

当院は内科医院として高血圧、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病やその他の一般内科診療はもちろん、様々なとらえどころのない健康の悩み事を解決する窓口でありたいと考えています。「どこに行ったらいいのかわからない」訴えが思わぬ内科疾患であることもしばしばあります。もし内科以外が原因であれば速やかに適切な専門機関に紹介することも私達の重要な役割です。内科医院である当院で問題のすべてが一度に解決するわけではありませんが、みなさんの不安や不調の解決の糸口となれるよう心がけています。地域の皆様に信頼いただけるクリニックでいられるよう、スタッフ一同努力していきたいと考えていますので、気になることは何でもご相談いただければ嬉しく思います。

子どもにも家族にもやさしいクリニック



たけうち
ファミリークリニック
TAKEUCHI FAMILY CLINIC

小児科 小児外科

小児在宅診療 家族診療(内科・循環器内科)



院長 竹内 雄毅 先生



- 京都府相楽郡精華町狛田2丁目5-5
- TEL 0774-95-2020 FAX 0774-95-2025
- メール takeuchfamcl@gmail.com
- ホームページ <https://www.takeuchi-family-cl.com/>

診療時間

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○
乳幼児の時間 15:00~16:00	☆	☆	/	☆	☆	/
16:00~18:00	○	○	/	○	○	/

休診：水曜午後・土曜午後・日祝

☆乳幼児の時間：予防接種・健診・診察(予約制)

※水曜・土曜：9:00~13:00



当クリニックは、お子様とそのご家族の診療を行うファミリークリニックとして、地域の皆様に信頼される「家族のかかりつけ医」を目指し、令和6年4月1日に精華町狛田に開院いたしました。

お子様が体調を崩される時、親御さんも同じ症状で苦しんでいることがよくあるかと思えます。当院では、ご家族一緒に受診していただくことが可能です。また感染と非感染の患者様の待合を分けておりますので、赤ちゃんや感染に注意が必要な患者様にも安心して受診していただけます。

さらに当クリニックは、小児在宅医療にも取り組んでおります。長年、手術を通して小児医療に携わってきた小児外科専門医としての経験を活かし、医療的ケア児とご家族をサポートさせていただきます。どうぞお気軽にお声がけください。



Close
Up

認定看護師、特定看護師の紹介



当院には、専門性の高い看護師として「認定看護師」「認定看護師研修修了者」と「特定看護師」が計9名在籍しています。今回からそれぞれのスペシャリストの活動を紹介します。

 西病棟5階 副看護師長 認知症看護認定看護師 さか かず ま 坂 和真

私は認知症看護認定看護師として、認知症のある入院患者さんが安心して入院生活を送ることができ、治療がスムーズに受けられるように支援しています。厚生労働省によると、認知症を患っている方は年々増加傾向にあり、来年(2025年)は高齢者の5人に1人、2040年には4人に1人が認知症を患って生活する社会がやってくると発表されています。よって、日本は認知症の方たちと共に生活していく社会となっています。認知症は軽度の物忘れから始まり、進行するにつれて人や場所がわからなくなったり、道に迷って自宅に帰れなくなったりします。そのため、周囲のサポートが必要になる病気です。徐々に進行していくことにご本人、ご家族ともに不安を抱えながら生活をし、認知症の方を介護するご家族においては目が離せないといった身体的・精神的な負担も大きくなってきます。



認知症に加えて、肺炎による点滴治療が必要な方や、手術が必要となる方が入院されています。認知症の方は、入院しているということがわからずに混乱を招いたり、治療計画を十分に理解できずに、点滴治療や酸素投与などが継続困難となることがあります。また、自覚症状を適切に伝えることができなくなる方もいらっしゃいます。そのような方に日々関わり、思いや辛さを上手く表出できないことをサポートし、治療が計画的に行えることで早期に退院できることを目指しています。また、自宅での介護に悩んでいるご家族に対しても介護方法のアドバイスや、社会資源の情報提供を行っています。

また、当院では今年2月より認知症治療薬レカネマブの治療が開始されました。「以前に比べ少し物覚えが悪くなった。」とご本人、ご家族が気付かれて受診され、治療を受けられています。治療に関するご質問があればお気軽にお尋ねください。

西病棟2階 副看護師長

 摂食・嚥下障害看護認定看護師 うえ にし ひろ やす 上西 弘泰

(※取得予定)



「南京都病院だより」を手にとりいただきありがとうございます。昨年度、摂食・嚥下障害看護研修を修了し、今秋には摂食・嚥下障害看護認定看護師になる予定の上西弘泰です。

人にとって食べることは生きるために必要です。また、日々の生活における喜び・楽しみといった生きる希望に繋がる行為でもあります。

当院には、身体に障害を持った患者さんや、誤嚥性肺炎・窒息の可能性のある患者さんが多く入院されています。食べることに問題を抱え、患者さんやご家族が心配をしながら日々を過ごしておられます。患者さんによっては口から食べることが困難になることもあります。そのため、どうしたら安全に口から食べていただけるのか、医師や理学療法士・言語聴覚士・薬剤師・栄養士など多職種と連携しながら、それぞれの患者さんに応じた摂食訓練やケアを行っています。たとえ一口であったとしても、患者さんの食べる喜び、生きる希望を引き出せるような関わりを心掛けています。

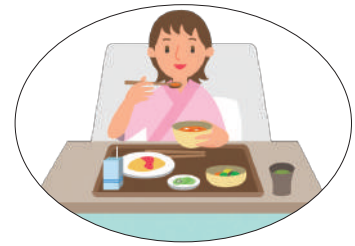
今後は、地域で暮らす摂食・嚥下に対して不安を抱える皆様の支援が行えるよう、外来や院外での活動を行って参りたいと考えております。残念ながら、誤嚥性肺炎は改善して退院されたとしても、摂食・嚥下障害がある限り入院を繰り返す可能性の高い疾患です。このような心配のある患者さんやご家族にも、日常生活のアドバイスをさせていただきますので、どうぞお気軽にご相談下さい。

Topic



当院の行事食について

みぎのひさし
栄養管理室長 右野 久司



今回は、当院の行事食の一部をご紹介します。

入院中は、治療上特に食事制限の必要がない場合は一般食(普通食)、食事制限の必要な疾患や飲み込み
みに問題がある場合などには特別食(治療食)が提供されますが、全食種で元旦やクリスマス、節分やひな
祭り、お花見やお月見などの季節に合わせたメニューや、誕生日のお祝いデザート+カードなどの行事食を
提供しております。また、普通食では複数のメニューから好きなものを選ぶ選択食も行っています。

それとは別に毎月1回、別途300円の費用負担をいただいて希望された方を対象に、旬の食材をふんだん
に使った日常のメニューにはない料理を「特別メニュー食」として提供しています。当初は治療上制限の
ない普通食を食べておられる患者さん限定で提供していましたが、治療食
を食べておられる患者さんにも食の楽しみとして提供できないか検討した
結果、主治医の許可を得ることで提供できる体制を整え好評を得ています。
こちらについては、当院のLINE配信にて毎月写真付きで紹介しております
ので、ぜひそちらもご覧ください。

写真は重症心身障害児(者)病棟における行事食で「秋の行楽弁当3形態
(左から普通形態、きざみ形態、ペースト形態)」です。

LINEの友達追加方法

LINEの『友だち追加』から

①ID検索 → @761jrnss



②QR検索 →



今後も患者さんに喜んでいただける行事食を提供してまいりたいと思います。

独立行政法人国立病院機構
南京都病院

〒610-0113 城陽市中芦原 11 番地
TEL.0774-52-0065 FAX.0774-55-2765
時間外緊急時 TEL.0774-52-0642
<https://minamikyoto.hosp.go.jp/>
当院は在宅療養あんしん病院に登録しています。詳しくはかかりつけ医
にご相談ください。

〈地域医療連携室〉

TEL.0774-52-0191(直通) FAX.0774-58-0270
月～金 8:30～19:00 (土日祝休み)
E-mail: 407-renkei@mail.hosp.go.jp

※予約状況を確認し、その場で受診日時をお返事いたします。なお、お時間
を要する場合は折り返しお返事させていただきますのでご了承ください。

診療科のご案内

- 内科
- 脳神経内科
- 呼吸器内科
- 消化器内科
- 循環器内科
- 小児科
- 外科
- 整形外科
- 呼吸器外科
- 皮膚科(入院のみ)
- リハビリテーション科
- 放射線科
- 心療内科(入院のみ)
- 歯科(入院のみ)

交通のご案内



- 近鉄京都線 新田辺から 京阪宇治バス約15分
- JR 学研都市線 京田辺から
- JR 奈良線 山城青谷から 徒歩 20分

各駅より
送迎車あり



今後の紙面の参考にアンケートにご協力ください。
左の QR コードからアクセスし南京都病院だよりを
読んだご意見ご感想をお寄せください。

南京都病院だより
2024年夏号アンケート
docs.google.com